

# 被災した博物館・美術館を携帯情報端末で繋ぐ参加型成長連携ミュージアムの支援

研究代表者	伏見清香	広島国際学院大学・教授
共同研究者	神垣太持	広島国際学院大学・教授
共同研究者	趙領逸	広島国際学院大学・准教授

## 1 はじめに

2011年の東日本大震災は、世界中の人々に「いのち」の大切さを深く考えさせる重大な災害であった。被災館では、施設・職員・展示物のすべての面で壊滅的なダメージを受けた博物館や美術館も少なくない。海外の研究者からは、「何か手伝う事はないか、サポートしたい。」と暖かい応援の言葉をいただいた。

本研究は、携帯情報端末を使用し、東日本大震災での被災美術館や博物館、国内外の美術館、博物館、都市を Web で連携し、分野と地域を越えた新たな参加型連携ミュージアム支援システムである。新たなミュージアムの可能性を探る研究であり、博物館のジャンルを越え、被災館、博物館、美術館、都市、海外の館が連携し、被災館の活動再開を支援する。

美術館や博物館、各都市が用意した「いのち」に関わる代表的な展示情報に加え、現地からの投稿で共有する Web 上の情報が増え、システムが成長する。分野を越えた国内外の館や都市が連携し、互いにサポートし合える本システムを利用することで、被災館からの情報発信を促進し、現状理解と支援に繋げる。また、海外組織の参加は、「いのち」に対する人間の根源的でグローバルな営みの情報共有を可能とし、身近な経験や体験、知識がなければ見逃しがちな広く深い観察・鑑賞へと導き、より多くの人と時代を共有することを目指す。参加者の利用傾向、興味と満足感における内容の繋がりと相違を明らかにし、新たなシステム開発に繋げることを目的とした。

## 2 参加型成長連携ミュージアム支援の計画

本研究に参加するミュージアムを大別すると以下のように分類できる。

- ・ **被災地のミュージアム**：震災では、施設・職員・展示物ともにダメージを受けた館は多く、展示物のクリーニングをこつこつと進めている館もある。本システムを利用することによって、被災館からの情報発信を促進し、参加ユーザを被災館の理解と支援へ繋ぎ、さらに発展させる。
- ・ **海外のミュージアム**：オーストリアのアルス・エレクトロニカセンターと連携を始めた。「いのち」をテーマとした作品・展示を Web 上に計画しており、生命の営みについて広い視野で展示物の情報共有を行なうことを目的としている。
- ・ **都市全体ミュージアム**：都市の中には、その地域の歴史や場の特異性から生まれたパブリック・アートや日常空間において機能をもち活きた展示が存在する。システムの検索機能や GPS 機能を利用し、鑑賞者を能動的な観察・鑑賞行為に導くことを目標としている。
- ・ **現実の美術館**：携帯情報端末を利用した検索機能によって、都市空間、美術館、博物館において視点の異なった多面的な観察・鑑賞を実現する。
- ・ **現実の博物館**：博物館では、美術館にある同じテーマの美術作品が携帯情報端末を利用してサイト内で検索できる。美術館でも同様に検索でき、機能を利用することによって、視点の異なる観察・鑑賞が行える。

上記の機能で構成されるシステムを図式化する(図 1)。さらに参加館等のコンテンツを図に落とし込む(図 2)。

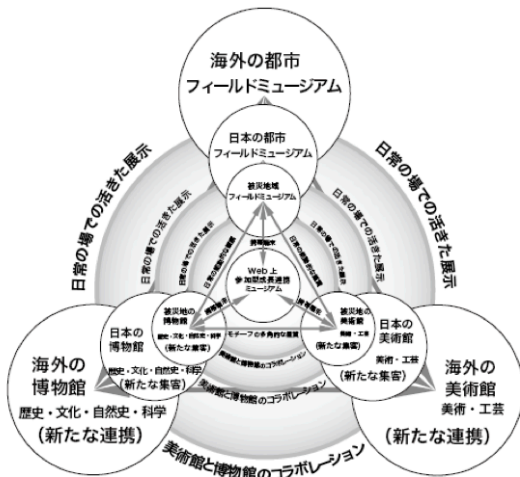


図1 研究の構造図

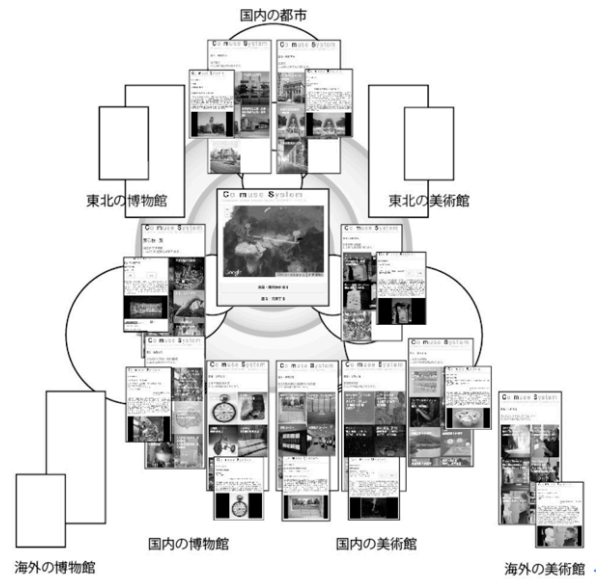


図2 各コンテンツ挿入図

また、研究計画の方法は、支援システムの開発、実証実験、成果発表の三段階に分けられる。

- 1) 「国内の被災地でない美術館・博物館・都市」「東日本大震災被災美術館・博物館・都市」「海外の美術館・博物館・都市」これらをWebで連携し、新たな参加型成長連携ミュージアム支援システムをデザインし、制作する。
- 2) 実験は一般ユーザを対象として1)日本の被災地でない博物館・美術館、2)被災地の博物館・美術館、3)海外の博物館・美術館の順に実施し、印象評価、インタビュー、行動観察、投稿内容により、博物館系と美術館系ユーザの興味と満足感に関わる内容の相違を明らかにする。
- 3) 各学会、国際会議で発表する。

### 3 参加型成長連携ミュージアム支援への参加館・参加都市

広島市においては、震災を受けた地域と同様に、「平和」を強く希望する地域の歴史、文化や環境に根ざしたサイト・スペシフィックな屋外彫刻や、広島平和記念資料館をはじめとした日常空間における機能を持った展示（重要文化財指定建築物）が存在する。国内は、広島、北九州、愛知、東京、岩手の5地域、海外はオーストリアの館と連携を始めた。本研究への参加組織は増え、4つの博物館、3つの美術館、3つの都市、1つの海外アートセンター、現在は11組織が参加している。

・現在参加館：

- (広島県)：広島平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、広島県立美術館、広島市現代美術館
- (福岡県)：北九州市立自然史・歴史博物館
- (愛知県)：愛知県美術館
- (東京都)：国立科学博物館
- (岩手県)：遠野文化研究センター

・現在参加都市：広島市、名古屋市

・現在海外参加館：アルス・エレクトロニカセンター（オーストリア）

## 4 システムのデザイン

まず、日本語のページをデザインし、立ち上げた（図3）。

システムの制作作業と使用プロセスは以下の順である。

- 1) 各館の「代表作」、「いのち」をテーマとした作品（コンテンツ）5点～10点の選出（各館・組織）
- 2) 200～250文字程度の解説の作成（各館・組織）
- 3) 代表作品5点～10点の画像と解説のwebアップ（主催者）
- 4) 携帯情報端末から展示品のオリジナル撮影写真とコメントの投稿（参加者）
- 5) 投稿データの閲覧（参加者）（各館）（主催者）
- 6) 検索（参加者）（各館・組織）（主催者）
- 7) 悪質投稿データの削除（各館・組織）（主催者）
- 8) 展示品画像と解説の追加アップ（各館）
- 9) 追加情報のアップ（各館・組織）（主催者）

さらに、英語のページを制作した（図4）。英語と日本語はページ上部で選択可能とした。



図3 日本語トップページ

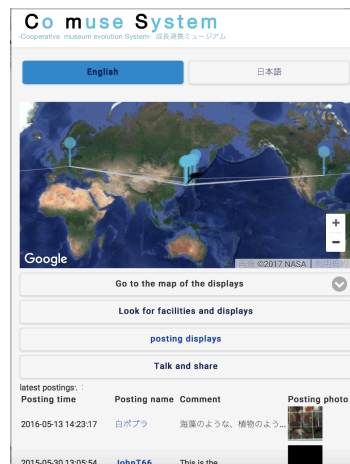


図4 英語トップページ

各コンテンツの解説は、参加した各組織が作成した。それを翻訳するにあたっては、細心の注意を払ったが、微妙な表現を100パーセント翻訳するのは大変難しいとの意見があり、作成した各組織と相談の結果、翻訳文の下には原文を併記することとした（図5,6）。



図5 日本語の解説ページ

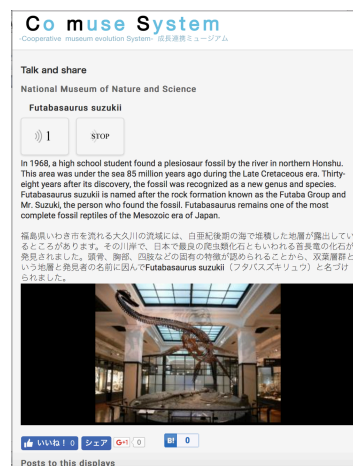


図6 翻訳された英語解説のページ

GPSとグーグルマップの使用により、参加者の投稿情報にピンの位置が反映される（図7,8）。



図 7 日本における遠野市の位置情報



図 8 広島県における広島県立美術館の位置情報

## 5 実験と研究発表

2014年2月7日～9日に東京の国立科学博物館（共同研究施設）で実験を実施した。アンドロイドのスマートフォンでの投稿は比較的スムーズであるが、iPhoneのOSのアップグレードによる不具合が生じた。加えて、写真撮影とその写真を添付して送信するための手順が複雑であるとの指摘を参加者から受けた。あげられた課題を改善し、同年11月には九州の北九州市立自然史・歴史博物館（共同研究施設）において実験を実施した。2月に実施した国立科学博物館での課題を修正したうえで実験に臨んだが、まだ投稿時にわかりにくい箇所があるとの指摘を受けた。改善を加えながら、2015年には広島県立美術館や広島市現代美術館での実験を繰り返し、英語ページも作成した。

研究成果の発表は、国内学会での口頭発表や研究報告、国際会議での発表を実施し、2015年にはアメリカで開催されたMWwo15:International Conference Museums and the Webにおいてデモンストレーションを行いながら発表を行った。

## 6 今後に向けて

時間が経過し、多くの支援により復興した部分も多いが、被災地の美術館や博物館には継続的な支援がまだまだ必要である。

今後も互いにサポートし合える本システムを利用することで、被災館からの情報発信を促進し現状理解と支援に繋げたい。また海外組織の参加は「いのち」に対する人間の根源的でグローバルな営みの情報共有を可能とし、身近な経験や体験、知識がなければ見逃しがちな広く深い観察・鑑賞へと導き、より多くの人と時代を共有すると考えられる。システムに新たな機能を追加しながら、参加者の利用傾向、興味と満足感における内容の繋がりと相違関係を明らかにしながら支援を続けたい。

〈発 表 資 料〉

題 名	掲載誌・学会名等	発表年月
“知”のあり方とそれを支援するインタラクティブなシステム- 携帯情報端末を用いたインタラクティブシステムの実証実験	新砂防 砂防学会誌 巻号 Vol.67 No. 3(314)	2014年9月
Cooperative museum evolution System - Museum Appreciation Support System by Using Smart phones -	International Conference Museums and the Web : MW2015	2015年4月
想定外を生まない砂防科学 -全てを背負う「知の野生化」-	古今書院	2015年9月